広西壮族自治区のトン族集落における居住空間

―風水と「政策移動」―

黄　　潔 *

「風水」との出会い

2012 年 1 月，私は山道を小型のバスに揺られながら，初めて広西壮族自治区三江侗族自治県のトン族の集落に入った．先に杉林や水田が目に入り，そして綺麗な屋根付きの橋（「風雨橋」と呼ばれる）を渡って，寨門（村の出入りする通路）を経て，やっと地元の人々が居住する集落 G 村に着いた．彼らの集落は，川が流れる山間の平地に位置し，各父系出自集団はそれぞれ鼓楼（塔形の集会所）を中心に集まって居住することにより形成された．彼らは自身が鼓楼に集う様子を，魚の群が魚穴に集まるのに見立てているのだという．

写真 1　トン族の集落空間（広西壮族自治区三江侗族自治県林渓郷 G 村）
2016 年 8 月 24 日撮影

しかも，私がとても驚いたのは，トン族の集落において風水が不可欠なものであったことである．集落の周辺（特に集落より下流側）には，屋根付きの橋が数多く架けられている．こうした橋の位置は風水に則って選ばれている．なぜなら，川に沿って流れ去る財（宝，気）をせきとめ，集落内に残す役割をもつとされるからである．橋の撤去についても常に風水がその根拠とされている．

たとえば，G 村のはずれに建つ丁哨橋が 1963 年に撤去・移動された原因に関して，中国共産党が主導する政治運動によって強行されたという事実について記憶する村民は少ない．しかし，ほとんどの村民がこの本当の原因が，当地の風水と関係があると信じており，とりわけ火災の発生と関係があるのではないかと思っている．よく聞く話としては，

「昔，こんな話を聞いたことがある．我々の土地は風水を重んじ，村の西北から見ると，地形は川獺のようである．川獺は魚が好物だ．村は四方を山に囲まれており，山の下に丁哨橋を造った後，川獺を閉じ込めたように見え，風水を破壊したのだ．これによって村の風紀は乱れ，村内にこそどろや，強盗・

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

盗賊・博徒が増え，狡猾なものは外へ行って強盗をし，それ以外の者は村で物を盗み，田んぼを売って家は貧しくなってしまった．その後 1961 年に火事が起こって，村の 8 割が焼けてしまった．被災者のうちには，橋を撤収すべきだと言う者もいた.」

つまり，彼らにとって橋の立地は火災と関係づけられるだけでなく，彼らの生存環境を脅かすものとして，さらに人の行いなどにも影響するものであった．そのため，橋の撤去と移動が必要であった．これは集落にて新たに創造され，広く流布する風水伝説であり，その発生・伝播・意味について興味を覚え，現在まで研究を続けてきた．私は 2016 年 8 月から 10 月までの間，「政策移動」（近現代中国における政府主導の政策による，村落空間の強制的な移転などを指す）に関して，トン族集落の風水の実践および地元民の考えに注目してフィールドワークを行なった.

三江県のトン族の集落をめぐる「政策移動」

現代中国では特に 1950 年代から，中国共産党が主導した農村や農業に関連する政策や，文化的政策（特に大躍進・農業学大寨・四清運動・文化大革命）を背景として，少数民族の村落の自然環境と社会環境が大きく変化した．たとえば，大躍進政策により，食糧の増産のために山地が開墾され水利施設が建設された．また，鉄鋼生産を支援するために農村部で多量の樹木が伐採され都市部へ供出させられた．現在では，文化遺産保護や観光開発などの政策によって，道路や水利施設などを集落の別の場所に移動したり，区画整理の対象となることも多い．また，2000 年以降には，西部地域の大開発政策により，西南中国の少数民族地区は，貧困問題解決のための重点地区として，行政主導で経済や文化政策（たとえば農田水利・観光開発・防火防災・遺産保護など）が実行されている．これらによって，村落の移転と住民の移住ならびに公共空間の区画整理などの環境変動が頻繁に発生することとなった.

三江県においては，1950 年以降，集落空間をめぐる「政策移動」が非常に多いとみられる．具体的にいえば，1963-1966 年「四清運動」（中国共産党の指導下で行なわれた総点検運動），およびその後に続いた文化大革命では，集落内部の風雨橋と神廟などの公共空間や施設が破壊され，一族の象徴としての鼓楼が村の生産隊（中国農村部において，国家の計画に基づき土地の共有により農業生産を行なう，社会主義的農業経済の村民組織）の倉庫や会議場に改造された.

1964 年には，「農業学大寨」（農業の発展は山西省大寨村に学べという意味）と呼ばれる社会運動があったため，林渓郷の G 村などの集落周辺の山（墓地や古い樹がある）に百畝の耕田を開き，杉の木を伐採して柳州市の国営木材加工工場に売却し，また観光のために大量の竹を植えてきた.

1974 年，林渓郷の政策によって，トン族の諸集落には防火線を設置し，家屋と家屋の間隔を広げるために，一部の民家を周辺の山の裾に移動させた.

2008 年，三江県の民族村寨改造プロジェ

クト（家屋・電気・竈・水道・厠の改善）が始まり，村民は防火のために，山頂に貯水池を造り，家屋や鼓楼の火塘（囲炉裏）をコンクリート製へと改めた．

現在，G 村は，2012 年にほかの 7 つのトン族集落（広西省 1；湖南省 6）と共に世界遺産の予備リストに登録され，また 2013 年広西壮族自治区環境保護庁により生態村建設工事が始まり，集落に対して新たな管理条例が実施されている．

この 60 年来，政策移動が原因で，トン族の集落における自然や社会空間には，たびたび変動が起こった．

集落における風水に関する語り

風水は，中国西南部に居住するトン族のもつ文化や日常生活の中で非常に重要な知識とみなされてきた．風水の良し悪しが原因で県城（県庁所在地）が移転されたことが，歴史書や碑文に記載されている．風水に関する伝承は各地の集落で語り伝えられている．トン族の集落には現在でも風水の専門家（風水師）がおり，村人の家屋や公共建築物を建築する時（陽宅風水）や人が亡くなった時（陰宅風水）には風水師をよび，方位や日時の選択を行なったり，儀礼を執行したりしている．しかしながら，中国における開発政策においては，龍脈（風水において重要な山並み）や墓地の開墾，樹木（風水樹）の伐採が強行され，風水は「封建迷信」として強く攻撃されてきた．

特に，近年集落空間の移動に関して，政策のために強制されたという事実より，村民は空間の移動によって起こった災いが，当地の風水と関係があると信じている．

三江県のトン族の集落で行なった聞き取り調査によって，政策移動の背景にある村落の風水伝説は 4 つに分類することができる．

1）四清・文革の時，川下流側に位置した風雨橋の撤去については，風水が理由とされている言説．前述した丁哨橋のように，建ててた橋の位置や方位が，集落の風水を破壊したため，村に悪い影響を与え，さらに火事などの災いが起こったという．

2）集団農業を提唱する時，一族の鼓楼の破壊や改造は，風水上の理由から，一村や一族の発展に悪い影響を及ぼすとする言説．たとえば，村落にあった五層の楊姓鼓楼が一層に改造された後，族員の中に強盗や泥棒が現れ，家業は廃れたという．

3）「農業学大寨」の時，山を掘ったり，墓地を開墾したりしたことにまつわる伝説．特に龍脈を掘った後，人が病死したり，家運が傾いたことがあったという．

4）樹木（風水樹）の伐採や，神廟など公共空間を破壊した個人（特に政治運動の時，中国共産党や政府の幹部，資産家）がその報いを受けるといった伝説．1970 年代，国家政策による木材販売のための伐採に関して，古樹を切りつけた後，伐採を担当した責任者たちは，病死したり，認知症となったのみならず，さらに全村にも災いがもたらされたという．

これらの語りは集落で流布しており，トン族の人々は歴史的事件に主観的な風水に関する想像を付加して説明しようとしており，こ

れらが新たに創造された風水伝説であると考えられる．

集落にみる現代の風水実践

政策要因による集落空間の移動や改造が発生する際，住民は村落の風水を守るため，自発的に対処してきた．それは，伝統的に，村全体で民間の慣習法によって，自然環境をめぐる禁忌が設定されていることによる．たとえば，風水樹を切ったら，罰金を科す．また，政府との交渉に際して，多くの場合，住民が中国政府の幹部たちの目につかないようにして，密かに独自の対処を行なうことがある．

以下は調査地三江県林溪郷 G 村の事例である．

1）1974 年，防火防災のため，郷政府の要求に応じて，G 村は防火線を設け，山頂に 2 つの貯水池を建設した．しかし，村民は井戸水を飲む習慣があり，風水を考慮して，龍井（大火災が発生した後に龍井を造るのはトン族の伝統である）を造ることが必要であると考えた．そのため，貯水池の建造工事が終わった後，村民は密かに集落の地理先生（風水の専門家）を頼んで，山の東方に 2 つの龍井を設けた．

2）2016 年下半期，貧困扶助や観光開発のため，G 村は林溪郷から数万元の交付金を受領したことから，駐車場を建設している．その駐車場は，集落から 15 メートルほどの距離にある．工事は郷政府の計画によるものだが，G 村の老人たちはその駐車場から集落の中心までの道の建設を大変重要視していた．G 村の老人たちにとって，その具体的な施設は問題ではなく，道を建設するには，まず地理先生に頼んで，みてもらう必要があり，外から集落への道の方位が，村全体の繁栄や人の発展に影響を与えるという風水上の意味があったためである．そのために，彼らは工事中に，密かに地理先生に頼んで，道の方位を確定してもらった．またそれを「村民に対して便利である」という客観的理由として，政府に説明した．

写真 2　老人たちが道の方位を確定している
2016 年 9 月 2 日撮影

今後は風水師による民間儀礼に関する文献（手書き本）の分析に注力したい．それをもとに，風水伝説の発生と伝播，およびその実践に関する，住民自身による歴史，宗教，文化の再構築の営為について研究していきたい．

謝　辞

この研究は，平成 28 年度旅の文化研究所「第 23 回公募研究プロジェクト」の助成金交付により研究を遂行することができました．この場をかりて御礼申し上げます．